

令和4年度「全国学力・学習状況調査」 延岡市の調査結果について

延岡市教育委員会

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の概要

- (1) 調査実施日 平成4年4月19日(火)
- (2) 対象学年 小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年
中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年
- (3) 調査対象 延岡市公立小学校26校、延岡市公立中学校15校、義務教育学校1校
- (4) 調査内容 小学校…国語、算数、理科、質問紙調査
中学校…国語、数学、理科、質問紙調査

【調査問題：下記①と②を一体的に問う】

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

【児童生徒質問紙調査】

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する内容

【学校質問紙調査】

調査する学校を対象に、学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する内容

3 延岡市の結果の概要

全国の小学6年生・中学3年生を対象に学力・学習状況調査が行われ、市内の小学校26校、中学校15校、義務教育学校1校が参加しました。延岡市の児童生徒の将来の夢や目標に対する関心は、全国平均と比べて望ましい傾向にあります。また、学校へ行くのを楽しんでいるなど、児童生徒質問紙調査及び学校質問紙調査の質問項目の多くでは、肯定的な回答の割合が全国平均を上回っているなど、本市の教育活動の成果が表れています。

これからも、学校・家庭・地域が一体となって、ふるさと延岡への愛着と誇り、豊かな心と自己肯定感を土台として、自他の幸せのために学び行動する子どもの育成を目指した教育活動の推進を図っていきます。

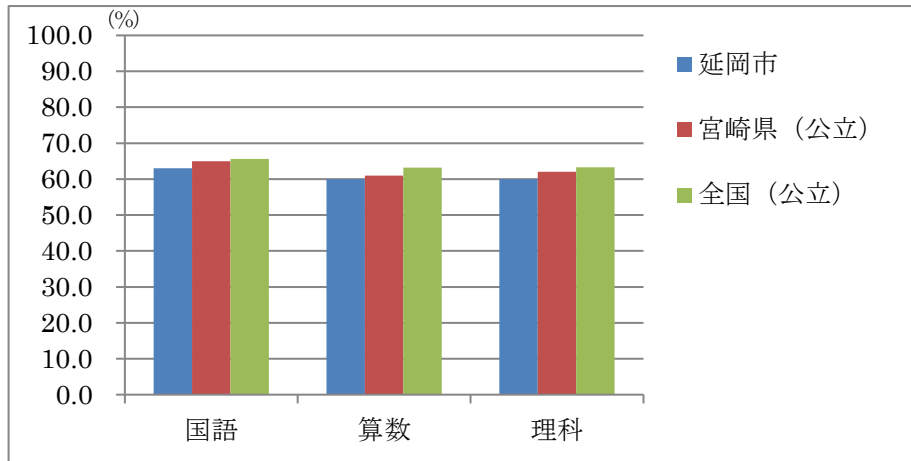
令和4年度「全国学力・学習状況調査」 延岡市の調査結果について（小学校）

延岡市教育委員会

※ 調査結果は学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であります。
「令和4年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要項」（文部科学省）より

1 平均正答率の状況

※平均正答率 … 個人の正答率（全設問における正答数の割合）を足し合わせ、児童の人数で割った値



【全体の傾向】

延岡市の児童の平均正答率と全国の平均正答率を比べると、国語、算数、理科において、全国をやや下回っており、課題が見られます。

領域で比べると、国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、全国平均と同等の結果となっています。

無解答率は、国語、算数、理科において、すべての問題において、全国平均以下になっており、望ましい傾向にあります。

調査問題の解答時間について、国語が6割以上、算数が8割以上、理科が9割以上の児童が、「時間が余った」「ちょうどよかった」と答えています。

2 各教科の状況

【国語】

○ 「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」問題で、正答率が高く、全国の平均正答率を上回っています。

● 「言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える」、「互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」、「登場人物の相互関係について、描写を基に捉える」に関する問題で、課題が見られます。

【算数】

○ 「二つの数の最小公倍数を求める」、「示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述する」、「表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求める」に関する問題で、正答率が高く、全国の平均正答率を上回っています。

● 「示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察する」、「分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察する」、「正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述する」に関する問題で、課題が見られます。

【理科】

- 「問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつ」、「メスシリンダーという器具を理解する」に関する問題で、正答率が高く、全国の平均正答率を上回っています。
- 「提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつ」、「自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつ」、「問題に対するまとめを導きだすことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録する」に関する問題で、課題が見られます。

3 児童質問紙調査の状況

【夢・目標について】

「将来の夢や目標を持っている」について、肯定的な回答をした児童の割合が全国平均より高いことがわかりました。

【生活習慣について】

「朝食を毎日食べている」について、肯定的な回答をした児童の割合が全国平均より高いことがわかりました。

【学校生活について】

「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する」、「人が困っているときは、進んで助けている」、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」、「人の役に立つ人間になりたいと思う」、「学校に行くのは楽しいと思う」について、肯定的な回答をした児童の割合が全国平均より高いことがわかりました。

【学習について】

「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」、「学校の授業時間以外に普段、1日当たり1時間以上勉強をする」、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり1時間以上勉強をする」について、肯定的な回答をした児童の割合が全国平均より高いことがわかりました。

【ICT教育について】

「授業で、ICT機器を週3回以上使用している」、「授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用している」、「授業中に友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用している」、「学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用している」について、肯定的な回答をした児童の割合が全国平均より高いことがわかりました。

4 学校質問紙調査の状況

【小中連携について】

「前年度までに、近隣等の小学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行った」について、肯定的な回答をした学校の割合が全国平均より高いことがわかりました。

【研修について】

「児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している」、「授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っている」について、肯定的な回答をした学校の割合が全国平均より高いことがわかりました。

【指導について】

「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした」、「学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行った」、「言葉の特徴や使い方についての知識を理解した

り使ったりする授業を行った」、「目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行った」、「算数や理科の授業において、教科担任制を実施した」、「児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面で、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用した」、「教職員と児童、児童同士がやり取りする場面で、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用した」、「児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使って、児童が学校外の施設（他の学校や社会教育施設、民間企業等）にいる人々とやり取りする取組みを実施した」について、肯定的な回答をした学校の割合が全国平均より高いことがわかりました。

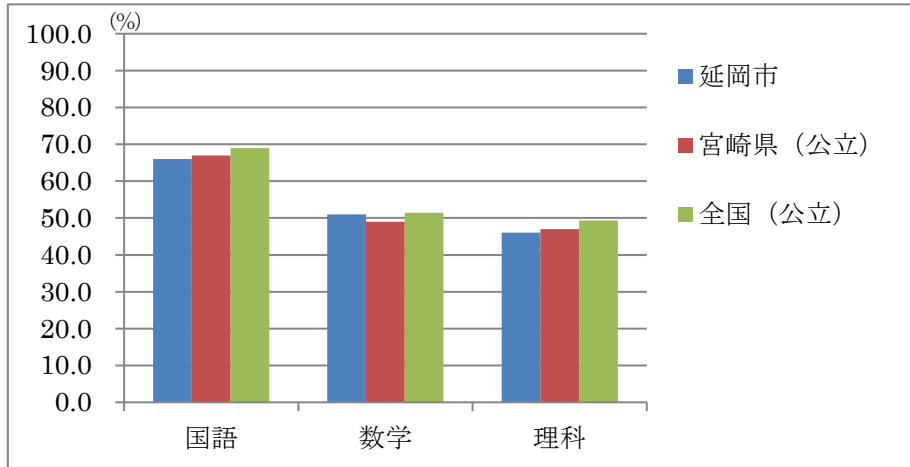
令和4年度「全国学力・学習状況調査」 延岡市の調査結果について（中学校）

延岡市教育委員会

※ 調査結果は学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であります。
「平成4年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要項」（文部科学省）より

1 平均正答率の状況

※平均正答率 … 個人の正答率（全設問における正答数の割合）を足し合わせ、生徒の人数で割った値



【全体の傾向】

延岡市の生徒の平均正答率と全国の平均正答率を比べますと、国語、数学、理科において、全国をやや下回っており課題が見られます。

領域で比べますと、数学では、「数と式」において、全国平均を上回っています。

無回答率は、国語、数学、理科において、全国平均をやや上回っており、課題が見られます。

調査時間の解答時間について、国語では約8割、数学では6割以上、理科では9割以上の生徒が、「時間が余った」「ちょうどよかった」と答えています。

2 各教科の状況

【国語】

- 「文脈に即して漢字を正しく書くこと」に関する問題で、正答率が高く、全国平均を上回っており、「表現の技法について理解すること」に関する問題で、全国平均とほぼ同等の結果となっています。
- 主に、「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すこと」、「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くこと」、「場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈すること」に関する問題で、課題が見られます。

【数学】

- 「自然数を素数の積で表すこと」、「簡単な連立二元一次方程式を解くこと」、「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること」に関する問題で、正答率が高く、全国平均を上回っています。
- 主に、「反例の意味を理解すること」、「一次関数の変化の割合の意味を理解すること」、「筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明すること」に関する問題で、課題が見られます。

【理科】

- 「継続的に記録した空の様子を撮影した画像と百葉箱の観測データを天気図に関連付けて、天気の変化を分析して解釈できるかどうかをみること」、「日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問

うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみること」、「節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈できるかどうかをみること」に関する問題で、正答率が高く、全国平均を上回っています。

- 主に、「課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能が身に付いているかどうかをみること」、「観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を考える学習場面において、観測地の標高を空間的に捉え、気圧の概念を空気の柱で説明できるか問うことで、気圧に関する知識及び技能を身に付けているかどうかをみること」に関する問題で、課題が見られます。

3 生徒質問紙調査の状況

【夢・目標について】

「将来の夢や目標を持っている」、「人の役に立つ人間になりたいと思う」について、肯定的な回答をした生徒の割合が、全国平均より高いことがわかりました。

【生活習慣について】

「毎日、同じくらいの時刻に起きている」について、肯定的な回答をした生徒の割合が全国平均より高いことがわかりました。

【学校生活について】

「友達と協力するのは楽しい」について、肯定的な回答をした生徒の割合が全国平均より高いことがわかりました。

【学習について】

「数学、理科の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役立つと思う」、「将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思う」について、肯定的な回答をした生徒の割合が全国平均より高いことがわかりました。

【地域社会について】

「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」について、肯定的な回答をした生徒の割合が全国平均より高いことがわかりました。

4 学校質問紙調査の状況

【小中連携について】

「前年度までに、近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行っている」、「前年度までに、近隣等の小学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行った」について、肯定的な回答をした学校の割合が全国平均より高いことがわかりました。

【研修について】

「授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っている」、「生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている」、「個々の教員が自らの専門性を高めるため、郊外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加している（オンラインでの参加を含む）」、「全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている」について、肯定的な回答をした学校の割合が全国平均より高いことがわかりました。

【指導について】

「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしている」、「学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行っている」、「指導計画の作成に当たっては、教育内

容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている」について、肯定的な回答をした学校の割合が全国平均より高いことがわかりました。

【授業について】

「学級全員で取り組んだり挑戦したり課題やテーマを与えている」、「学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができている」、「学級生活をよりよくするために、学級活動で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を合意形成できるような指導を行っている」について、肯定的な回答をした学校の割合が全国平均より高いことがわかりました。